

昭和六年九月滿洲事變勃發以來我々ハ協力一致シテ國家産業ノ爲メニ努力シ軍人ト同様ノ統制下ニアツテ國家ノ非常時ニ對シ忠實ニ我々ノ職分ヲ果シテ來タノデアルガ來ルベキ一九三五、六年ハ實ニ有史以來ノ重大ナ國難來ヲ報セラレツ、アル此秋ニ當リ國際外交ハ別トシ國內的ニモ非常時デアルト云ウ事ヲ再認讀セネバナラナイ、今日農民ハ窮乏シ都會勞働者ハ生活不安ニ喘イデ居ル 更ニ又彼ノ五・一五事件、神兵隊事件等ノ白色テロルハ何ヲ物語ルモノデアルカスノ如キ人心ノ不安動搖ヲ惹起セシメタ責任ハ資本家特權階級ニアルト云ウ事ヲ我々ハ考ヘナケレバナラナイ 彼等支配階級ノ態度タルヤ實ニ非國家的デアリ而モ我々ノ當然ノ要求ガ偶々非國家主義トシテ取扱ハル、ハ心外ニ堪ヘナイ

今ヤ資本主義没落ニ當面シテ向上會第十六回大會ヲ開催スルコトハ誠ニ意義深キモノガアル、我々ノ運動ノ過去ヲ顧ミテ過ツ

テ居ナカッタ事ヲ今判然ト認識シ將來ノ運動方針ヲ決定スルニ當リ慎重審議サレシコトヲ希望シテ開會ノ辭ニ代ヘル次第デア

次デ議長指名ヲ以テ副議長、書記、大會委員ヲ左ノ通り決定ス

1、副議長 狭 間 與 吉

2、書記 橋 本 吉五郎

野 間 一

3、大會委員

イ、資格審査委員 依 田 金 藏 外八名

ロ、議案審査委員 牧 谷 武 之 外九名

ハ、會計審査委員 阿 部 豊太郎 外九名

ニ、役員監査委員 狭 間 與 吉 外九名

ホ、規約審査委員 植 田 鶴 松 外九名

六資格審査委員會報告